



# 土佐発みなと未来

Future of Port and Airport in Tosa



国土交通省四国地方整備局  
高知港湾・空港整備事務所

## 目次

高知港(重要港湾)	3
須崎港(重要港湾)	7
宿毛湾港(重要港湾)	11
室津港(避難港)	13
上川口港(避難港)	14
高知港海岸	15
高知空港	17
総合的な防災対策の推進	19
港湾における保安対策	22
みなとオアシス	23
INFORMATION	26
高知のみなとACCESS MAP	27

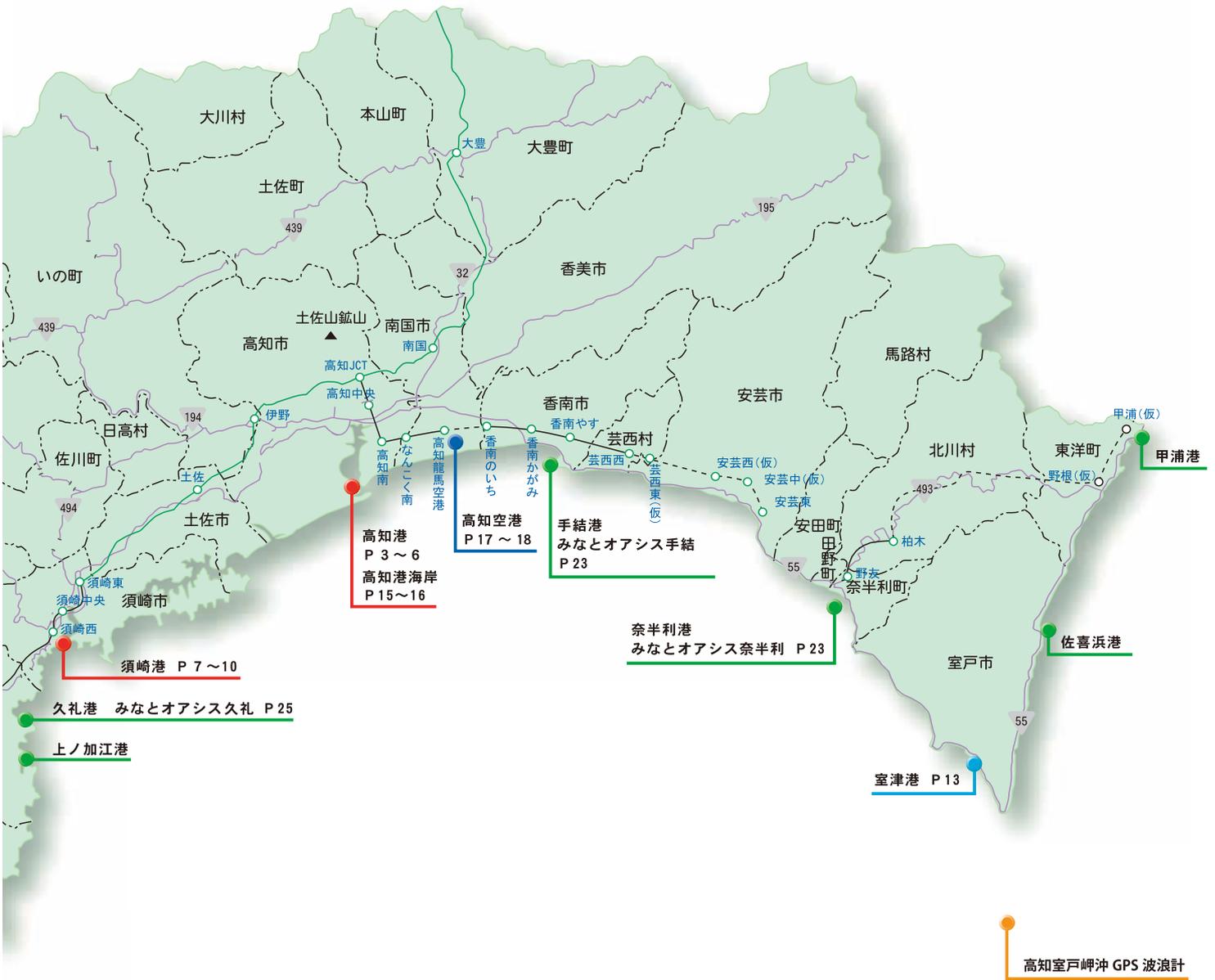
## 事務所の沿革

- 昭和4年 高知港の整備を行うため、内務省神戸土木出張所浦戸港修築事務所を設置。
- 昭和13年4月 高知港修築事務所に改称。
- 昭和18年11月 運輸通信省第三港湾建設部高知港工事事務所となる。
- 昭和20年5月 運輸省第三港湾建設部高知港工事事務所となる。
- 昭和27年8月 運輸省第三港湾建設局高知港工事事務所となる。
- 昭和53年4月 事務所を棧橋地区から種崎に移転。
- 昭和55年4月 上川口港に分室(上川口港事務所)を設置。
- 昭和56年9月 室津港に分室(旧室津港出張所)を設置。
- 昭和59年11月 須崎港に分室(現須崎港出張所)を設置。
- 平成3年4月 宿毛湾港に分室(宿毛湾港事務所)を設置。
- 平成9年4月 高知港湾空港工事事務所に改称。
- 平成11年4月 空港分室を設置。
- 平成13年1月 中央省庁再建により運輸省、建設省、国土庁、北海道開発庁の4省庁が統合、国土交通省四国地方整備局高知港湾空港工事事務所となる。
- 平成15年3月 宿毛分室閉所
- 平成15年4月 国土交通省四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所と改称。
- 平成16年3月 空港分室を閉所(滑走路拡張事業完了)
- 平成17年3月 上川口港事務所を閉所(避難港整備事業完了)
- 平成22年4月 宿毛湾港出張所設置
- 平成28年12月 旧室津港出張所を現在地へ移転

- 重要港湾  
国の利害に重大な関係を有する港湾
  - 避難港(地方港湾)  
暴風雨時に船舶が避難・停泊するための港湾
  - 地方港湾  
重要港湾以外の港湾
  - 拠点空港(国管理)
- 高速自動車国道
  - 高速自動車国道
  - - - 高速自動車国道(整備計画区間)
  - 一般道路
  - 自動車専用道路
  - - - 自動車専用道路(事業区間)
  - 一般道路

宿毛湾港 P 11~12  
みなとオアシス宿毛 P 24



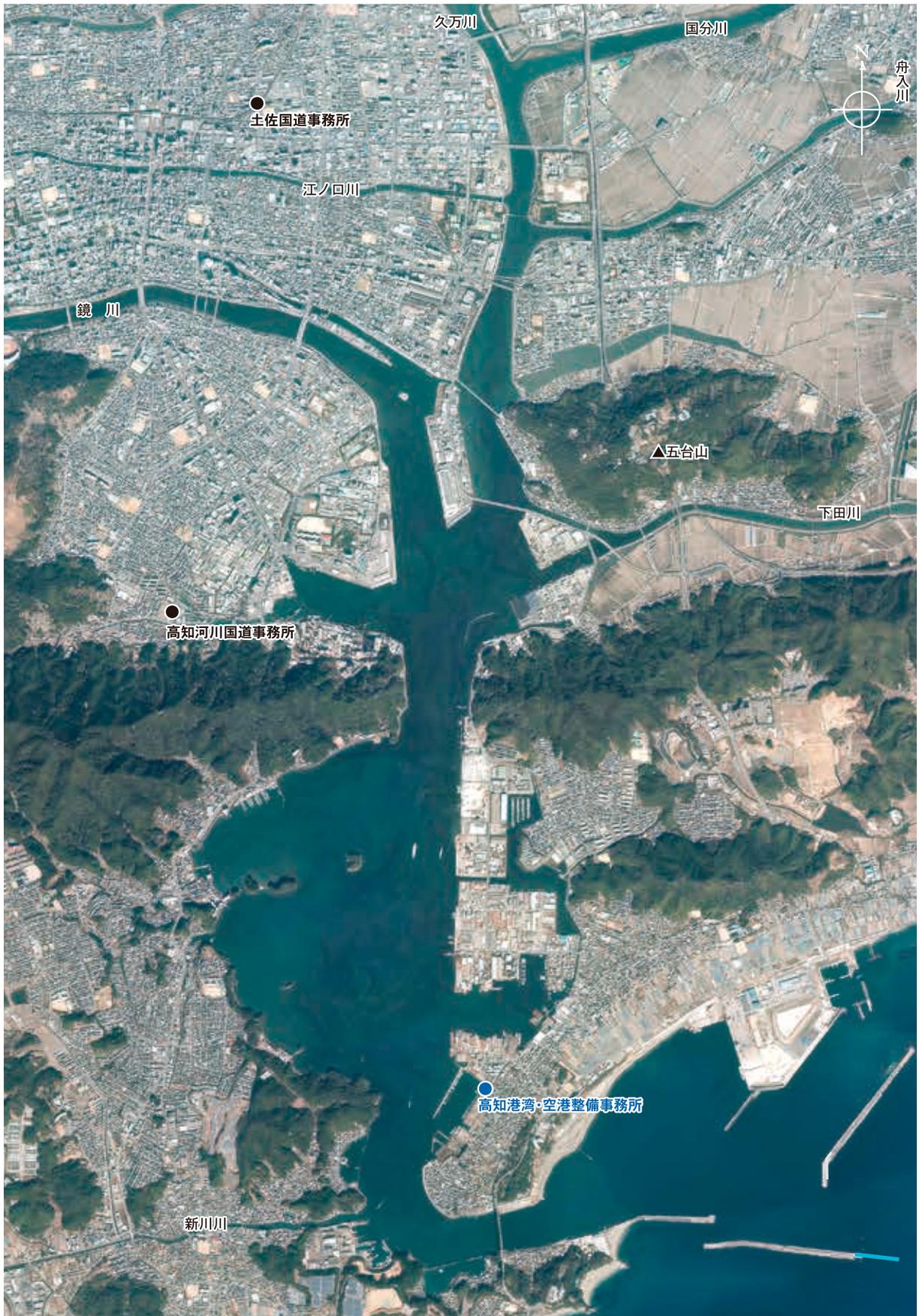


上川口港 航空写真提供：高知県



# 高知港

重要港湾



計画箇所 令和4年2月撮影

## 概要

## OUTLINE

高知港は、土佐湾の中央部に位置し、土佐湾から高知市に奥深く沈水した入り江である浦戸湾内と、外洋に面した高知新港に施設を有しています。

「土佐日記」には、紀貫之が今の天津船戸から船出し京都に帰任した記録が残っています。高知港は、古くから他地域との境界を険しい山々に隔てられている土佐の交通の要衝として重要な役割を果たしてきました。

我が国の鉄鋼産業に不可欠な石灰石の産地を背後に有し、積み出し基地としての役割や、韓国との定期コンテナ航路が就航するなど、外貿輸送拠点としての役割を担っています。

また、内航クルーズ船や外航クルーズ船の寄港にも利用されており、観光振興にも寄与しています。

なお、平成25年には高知県の防災拠点港配置計画において、一次防災拠点港に指定されています。

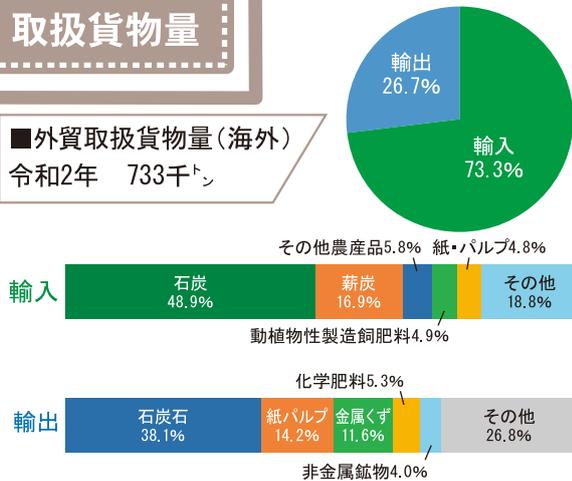
## 沿革

## History

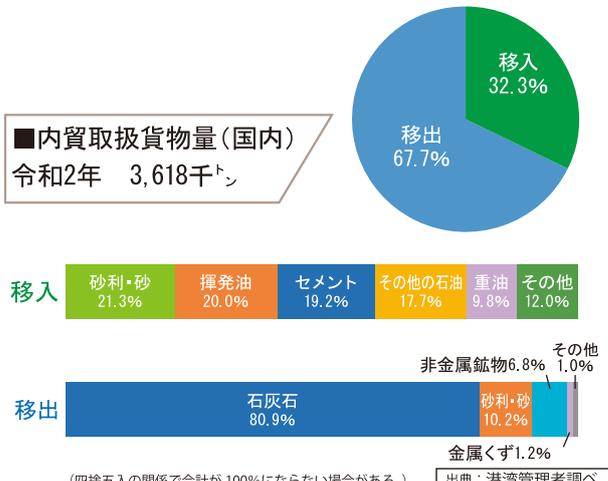
天正年間 (1575~92年)	長曾我部元親が土佐一国の領主となり、港口南岸勝浦浜の突堤を築造。
大正10年	航路浚渫により、1,300トンの船舶の入港が可能となる。
昭和13~20年	開港場に指定され、港名を高知港に改める。内港潮江に大型岸壁3バース完成。3,000トンの船舶の入港が可能となる。
昭和26年	重要港湾に指定。
昭和35~45年	高知港港湾計画(新規)を策定。航路泊地の拡張増深により、5,000トンの船舶の入港が可能となる。
昭和49~56年	浦戸湾内の開発の限界を踏まえ、種崎地区に大型船対応の新港を建設するため港湾計画を改訂。(昭和56年に三里地区に変更)
平成7年	輸入促進地域(F A Z)に指定。
平成10年	高知新港(三里地区)一部供用開始。30,000トンの船舶の入港が可能となる。
平成12年	「県経済を支える国際物流・交流拠点」(高知新港)、「人々が自然と共生し、交流が広がる水辺空間」(浦戸湾内港)を将来像として、港湾計画を改訂。
平成26年	高知新港三里地区岸壁(水深12m)、耐震強化岸壁(水深11m)の供用開始。
平成28年	高知新港高台企業用地が概成。

## 取扱貨物量

■外貨取扱貨物量(海外)  
令和2年 733千トン



■内貨取扱貨物量(国内)  
令和2年 3,618千トン

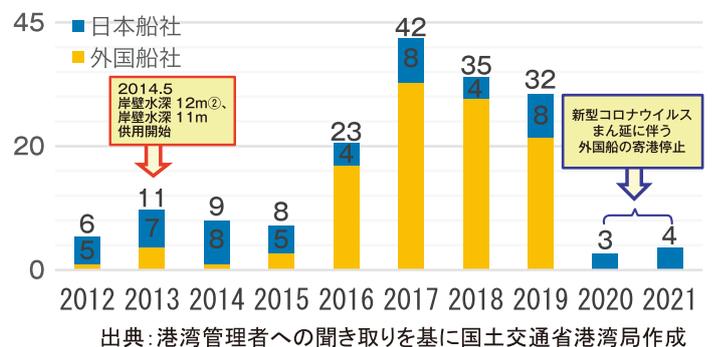


## クルーズ船等の寄港

平成26年に高知新港三里地区岸壁(水深12m)、耐震強化岸壁(水深11m)が供用開始されて以降、外航クルーズ船の高知新港への寄港が急増しています。平成31年3月には高知新港客船ターミナルがオープンし、高知新港へのクルーズ船のさらなる寄港が期待されています。



## 【高知港におけるクルーズ船の寄港状況の推移】



# くらしを支える みなとの役割

## 高知港

PORT OF KOCHI



### 1 新高知重工株式会社

港湾物流に欠かせない大型船、主に貨物船(1~3万トクラス)の建造を行っています。

高知県で建造される船としては、最大級の船を建造することができます。



### 2 木材団地

高知県は面積の84%を森林が占めており林業が盛んです。木材団地には県内産の杉やヒノキがたくさん集められています。

平成27年4月より土佐グリーンパワー(株)の「木質バイオマス発電所」が操業されています。



### 3 石油類・ガスの備蓄基地

私たちの生活に欠かすことのできない石油類やガスを備蓄している基地です。

日本オイルターミナルや出光興産などの石油タンク、四国ガスのガスタンクなどが並んでいます。

年間取扱量は約56万トンで、高知県内で使用される石油類の約9割以上を取り扱っています。



### 4 高知市中央卸売市場・地方卸売市場 (青果部門) (水産部門)

高知県全体の野菜や果物、水産品の大部分が取り扱われており、「高知の台所」的役割を果たしています。

午前8時を過ぎると一般にも開放され、買い物をすることができます。



### 5 東洋電化工業株式会社

鑄鉄（鉄合金）の強度・機能を高めるために必要な添加剤などの製造をはじめ、太陽電池の原材料となるメタリックシリコンの加工も行っています。



### 6 イーレックスニューエナジー株式会社

西孕に立地する太平洋セメントの石炭火力発電設備を改造し、インドネシア、マレーシア等からの輸入バイオマス燃料（パームやし殻）を使用した新電力（特定規模電気事業、発電能力：約3万kw）事業を2013年度より実施しています。

潮江地区には新港から運ばれる燃料のストックヤードが整備されています。



### 6 太平洋セメント株式会社 土佐事務所

構内の石炭火力発電所において、四国電力㈱、電源開発㈱との共同出資で土佐発電㈱を設立し、IPP事業（発電した電力を電力会社に卸売りする事業です）を行っています。ここで発電した電力は、高知県内で消費される電力の約22%に相当します。

また、土佐山鉾山で採掘された石灰石をセメント原料として県外のセメント工場へ移出しています。



### 7 国際物流の拠点 (高知新港)

高知港で最も水深のある岸壁（水深12m）では、バラ貨物の大型専用船によって石灰石の荷役が行われ、製鉄会社やセメント工場へ移出しています。製鉄会社では鉄鉱石を精錬する過程で不純物を取り除くために石灰石が使用されています。また、IPP事業に使用する石炭の輸入も行っており、大型船から5,000トクラスの船に瀕取り（積み替え）し、湾内の石炭火力発電所へ運んでいます。

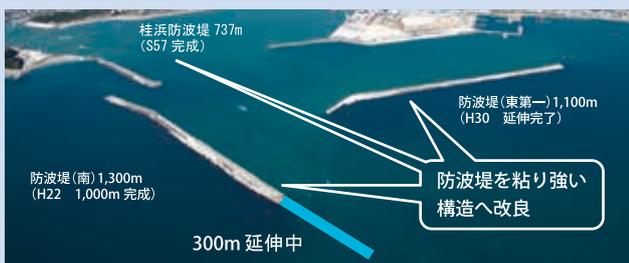
高知新港の岸壁（水深8m）では、週2便、コンテナ船による韓国との貿易が行われています。輸入品はパルプや稲わら、輸出品は紙やパルプ、炭酸カルシウムなど、30品目以上が取り扱われています。



### 9 港湾物流の機能向上のための防波堤整備 (直轄事業)

高知港を利用するコンテナ船（韓国の釜山航路）や石炭・石灰石等を取り扱う貨物船の利便性・安全性向上のため、太平洋の荒波から港を守る防波堤を整備しています。

現在、防波堤（南）の延伸及び防波堤（東第一）・防波堤（南）・桂浜防波堤の粘り強い構造への改良を行っています。



計画箇所

写真提供：高知県

### 8 耐震強化岸壁

高知新港は、高知県の一次防災拠点港に選定されています。

大規模な地震などの発災時には県外等からの海上輸送によって、耐震強化岸壁から救援部隊や救援物資、復旧資材の受入などを行うための拠点として重要な役割を担っています。

受け入れた資機材・物資等は仕分けられた後、内陸の総合防災拠点や二次防災拠点港へ搬送します。



# 須崎港

重要港湾



平成26年1月撮影

## 概要

## OUTLINE

須崎港は高知市の西約30km、リアス式海岸の形状をした天然の良港として、古くから地域の生産・消費物資を取り扱う港として重要な役割を果たしてきました。

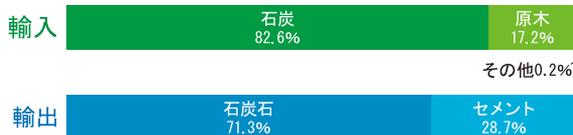
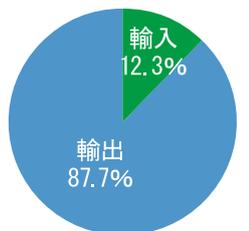
港湾取扱貨物量は、高知県全体の2/3以上を占めています。梱包材の原材料となるニュージーランド材(ラジアーターパイン)については、11万ト(令和2年)取り扱っており、日本屈指の梱包材の生産を行っています。

須崎港は入り口が広く、奥が狭い形状をしているため津波の被害を受けやすく、過去幾度となく大きな被害を受けました。このため、市民の生命と財産を守るとともに、地域経済の発展の障害をなくすべく、恒久的な津波対策である防波堤整備を湾口部にて実施しています。

また、平成25年には高知県の防災拠点港配置計画において、一次防災拠点港に指定されています。

### 取扱貨物量

■外貿取扱貨物量(海外)  
令和2年 5,289千ト

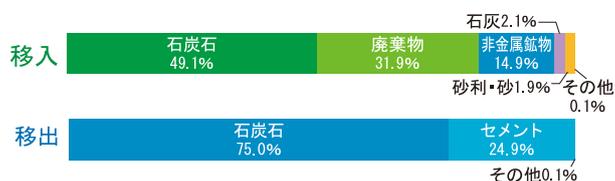
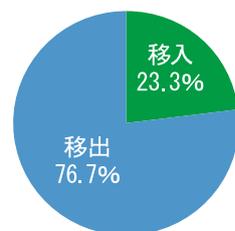


## 沿革

## History

昭和5年	阪神内務省指定港湾に編入。
昭和10~20年	石灰石の基地港として年々実績をあげる。
昭和21年	昭和南海地震と津波により大きな被害を受ける。
昭和35年	チリ地震津波により大きな被害を受ける。
昭和40年	セメント工場の操業等により、港湾利用が急上昇したため、重要港湾に指定。
昭和40~45年	港町地区で5,000ト級岸壁を中心とした公共埠頭が整備。
昭和44年	外貿による港湾利用も増大してきたことから、開港に指定。
昭和46~50年	港町地区で15,000ト級岸壁が整備され、背後に木材工業団地が立地。また、鳥形山の開発により、石灰石積出専用棧橋が建設される。
昭和47年	須崎港港湾計画(新規)策定。
昭和58年	港湾の安全かつ有効な利用を図るため、港湾計画を改訂。
平成3年	津波防波堤の地盤改良着手(東防波堤)
平成4年	津波防波堤着手。
平成11年	物流と防災機能を併せ持つ拠点港湾としての役割を果たすため、港湾計画を改訂。
平成21年	津波防波堤(西防波堤)完成。
平成25年	想定を超える津波が襲来しても防波堤が倒壊しないようにするため、防波堤改良工事に着手。
平成26年	津波防波堤(東防波堤)完成。
平成30年	物流、防災、交流の3つの機能の充実を図るため、港湾計画を改訂。

■内貿取扱貨物量(国内)  
令和2年 11,108千ト



(四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。)

出典：港湾管理者調べ

### 一口メモ 石灰石

○石灰石は、何億年もの前に海底に堆積したサンゴ類などの海中生物の骨や殻が、長い年月をかけて岩石となり、地殻変動によって陸地に隆起したものと言われています。

○資源小国と言われる我が国において、石灰石は自給率100%を誇る地下資源です。

○石灰石は、鉄鋼・セメントの原料として使用されているほか、土木・建築用の骨材としても使用されています。また、石灰石を細かく砕いた粉は、アスファルトの充填材・肥料・飼料等とその用途も多岐にわたっており、我々の日常生活に密着した貴重な鉱物資源となっています。



石灰石

# くらしを支える みなとの役割

## 須崎港

PORT OF SUSAKI



### 1 住友大阪セメント株式会社 高知工場

コンクリートの材料となるセメントが製造されています。原料の石灰石は鳥形山から供給されており、自社系列生産量の約40%(約350万㍓)を高知工場が占めています。

この工場では、産業廃棄物などを受け入れ、燃料等の一部としてリサイクルしているほか、IPP事業（電力卸売事業）も行っており、工場内の電力自給率は100%を誇っています。IPP事業では、石炭だけでなく間伐材などを木質バイオマス燃料として使用することにより、二酸化炭素の排出削減を図っています。



### 2 須崎木材工業団地

ニュージーランドから輸入した木材を梱包材に加工し、主に京阪神方面へ移出しています。

また、原材料となるニュージーランド材が取り持つ縁で、須崎港は相手港のタウランガ港と平成3年9月に姉妹港の締結をしています。



### 3 日鉄鉱業株式会社 鳥形山鉱業所

高知県仁淀川町に位置する鳥形山は、年間約1,000万tと日本一の生産量を誇る石灰石鉱山です。鳥形山で採掘された石灰石は、純度が高く鉄鋼用に適しており、須崎港までの約23kmを9基のベルトコンベアー(24時間フル稼働)で運ばれ、須崎港から国内をはじめ、オーストラリアや香港、台湾など世界各地に輸出されています。

また、住友大阪セメント株式会社高知工場で使用する石灰石の約7割を供給しています。



鳥形山



写真:日鉄鉱業株式会社パンフレットより

### 4 津波被害を最小限にとどめる防波堤整備 (直轄事業)

須崎港は本県の港湾取扱量の2/3以上を占める重要な港湾です。近い将来、高い確率で発生が予測されている東南海・南海地震の津波による須崎市街の被害軽減や、太平洋からの荒波を防ぎ港湾機能を向上させることを目的に、津波防波堤を整備してきました。

津波防波堤は平成26年3月に完成しましたが、想定を超える大きな地震・津波が来襲しても防波堤が倒壊しないよう、粘り強い構造へと防波堤の改良を行っています。



チリ地震(昭和35年)



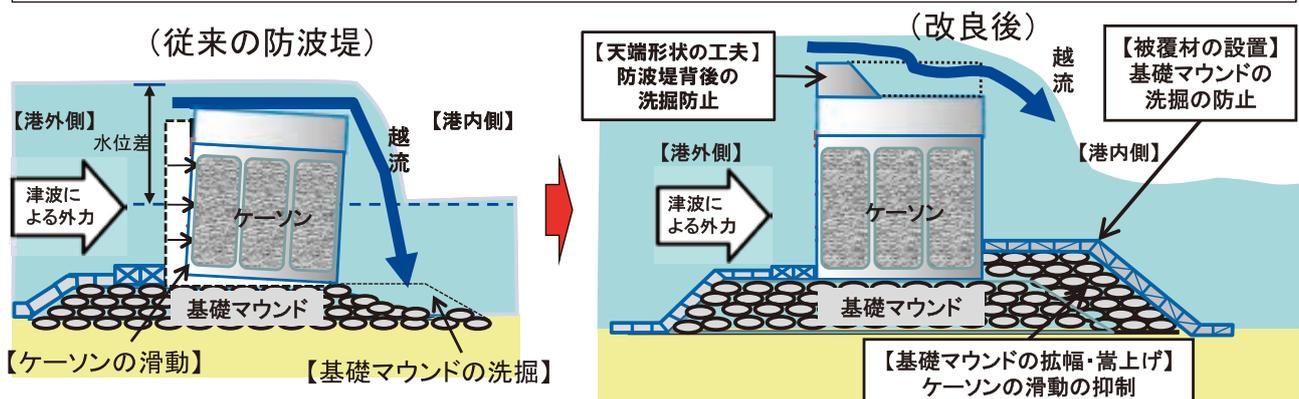
昭和南海地震(昭和21年)

須崎港における津波被害状況(須崎市提供)



写真提供:高知県

・ 防波堤を粘り強い構造へ改良することにより、発災後の港湾機能を確保。



# 宿毛湾港

重要港湾



平成25年1月撮影

## 概要

## OUTLINE

宿毛湾港は高知県の西南部に位置し、背後に広がる幡多広域生活圏の臨海部における産業文化の中心としての役割を担っており、昭和59年6月に片島港と小筑紫港が統合され、四国と九州を結ぶ海上交通の要衝として栄えてきました。

昭和61年に重要港湾に指定され、地域振興を図るための物流の拠点として、池島地区に岸壁(水深13m)を中心とした公共埠頭が計画されました。また、埠頭内には産業立地への対応として、宿毛湾港工業流通団地が整備されました。

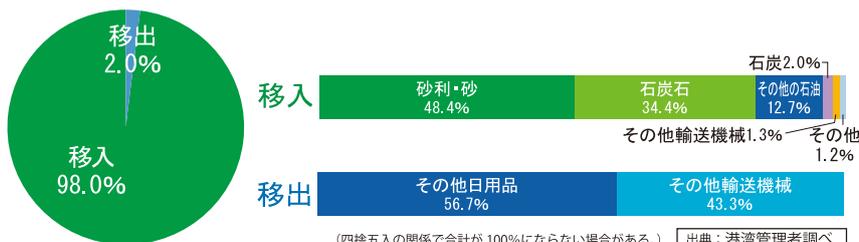
平成元年より整備が進められてきた岸壁(水深13m)については、平成12年から暫定水深10mの岸壁として供用されています。

平成21年より岸壁前面の静穏度の向上を図るため、整備が進められた防波堤(Ⅱ)は令和2年に完成し、現在は防波堤の粘り強い構造への改良を行っています。

また、平成25年には高知県の防災拠点港配置計画において、一次防災拠点港に指定されています。

## 取扱貨物量

■内買取扱貨物量(国内)  
令和2年 63千トン



## 宿毛湾港工業流通団地

宿毛湾港工業流通団地では造船会社が一部操業を開始しています。また、宿毛市が整備した交流拠点施設「すくも84マリンターミナル」は、宿毛湾港に入港するクルーズ船のおもてなしや、地域住民等の交流の場として活用されています。



## クルーズ船等の寄港

輸送艦くにさき



ぱしふいっくびいなす





計画箇所 平成26年1月撮影

## 概要

## OUTLINE

室津港は、高知県東南端の室戸岬に位置し、この沿岸一体は、風波が荒く航行の難所であるため、昔から避難港として重要な役割を果たしてきました。明治期までは本邦屈指の捕鯨地として、近年までは日本有数の遠洋マグロ漁業の基地として名を馳せた港です。

その後、室戸岬沖を航行する船舶の増加、大型化に対応し、周辺で唯一の避泊水域の拡充を図るため、昭和55年度から直轄事業として防波堤による避難港整備を進めています。

## 沿革

## History

延宝7年 (1679年)	掘込港湾である現在の「内港」が完成。
大正13年	県費支弁港として、外海への拡張に着手。
昭和19年	現在の「前港」が完成。
昭和26年	避難港として政令指定される。
昭和35年	現在の避難泊地を含む拡張工事に着手。
昭和46年	現在の室津港が完成。
昭和55年	船舶の大型化に対応するため、大規模な避難港整備に着手する。
平成11年	防波堤建設方法の見直しにより、作業ヤードの建設に着手。
平成19年	作業ヤードが完成。
令和3年	防波堤(II) 海上工事に着手。

# 上川口港

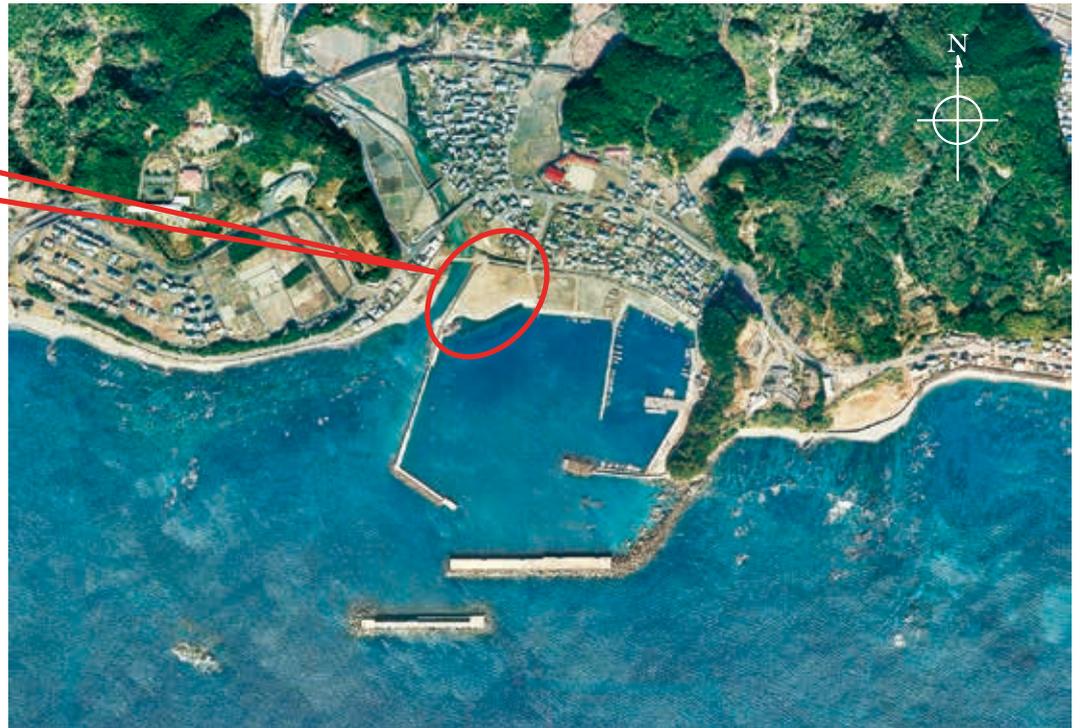
避難港

PORT OF KAMIKAWAGUCHI

## 上川口港鯨公園



黒潮町では、上川口港内にビーチスポーツ広場や非常用ヘリポートも備えた緑地公園を整備しました。



平成21年2月撮影

## 概要

## OUTLINE

上川口港は、南北朝時代に後醍醐天皇の第一皇子尊良親王が上陸した港として文献に記されている港です。高知市の南西約100kmの土佐湾南西部に位置し、東は井の岬、南は足摺岬に囲まれた天然の良港として、古くから幡多地方の経済社会の発展に寄与してきた歴史のある港です。現在は、土佐沖を航行する貨物船等の避難港としての役割を果たすとともに、港の前面に広がる豊富な漁場の漁業基地として利用されています。

## 沿革

## History

昭和26年	避難港に政令指定され、その後防波堤等の事業に着手。
昭和46年	現在の「内港」が完成。
昭和53年	新たな避難泊地の要請から、外海への拡張工事に着手。
平成8年	避難泊地の浚渫完了。
平成9年	避難港として供用開始。
平成17年	防波堤整備の完成とともに、避難港整備事業完了。

## ●避難港のイメージ



## ●全国の避難港

避難港は、台風や冬季荒天などによる暴風雨時に船舶が避難停泊するための港湾として港湾法に定められており、全国で36港が指定されています。



# 高知港海岸



## 概要

## OUTLINE

高知港海岸が位置する高知市は、高知県全体の約47%の人口が集中しており、特に浦戸湾周辺には行政機関や学校、病院などの公共施設が多数存在しています。

しかし、高知港海岸の海岸保全施設は、老朽化による防護機能の低下が顕著になっているものも多くなっています。

このため、南海トラフ巨大地震・津波に備え、地域の安全・安心を守るため、高知港海岸においては、海岸保全施設を以下の3つのラインからなる「三重防護」による対策を進めています。

- ・第一ライン(第一線防波堤): 粘り強い構造への補強等を実施
- ・第二ライン(津波防波堤・外縁部堤防等): 地盤沈降等に対応した嵩上げ、液状化対策等の実施
- ・第三ライン(内部護岸等): 地盤沈降等に対応した嵩上げ、液状化対策等の実施

## 昭和南海地震(1946年12月21日発生)による浸水被害

昭和南海地震発生直後の写真 (1946年12月22日五台山より撮影) (出展: 高知市HP)

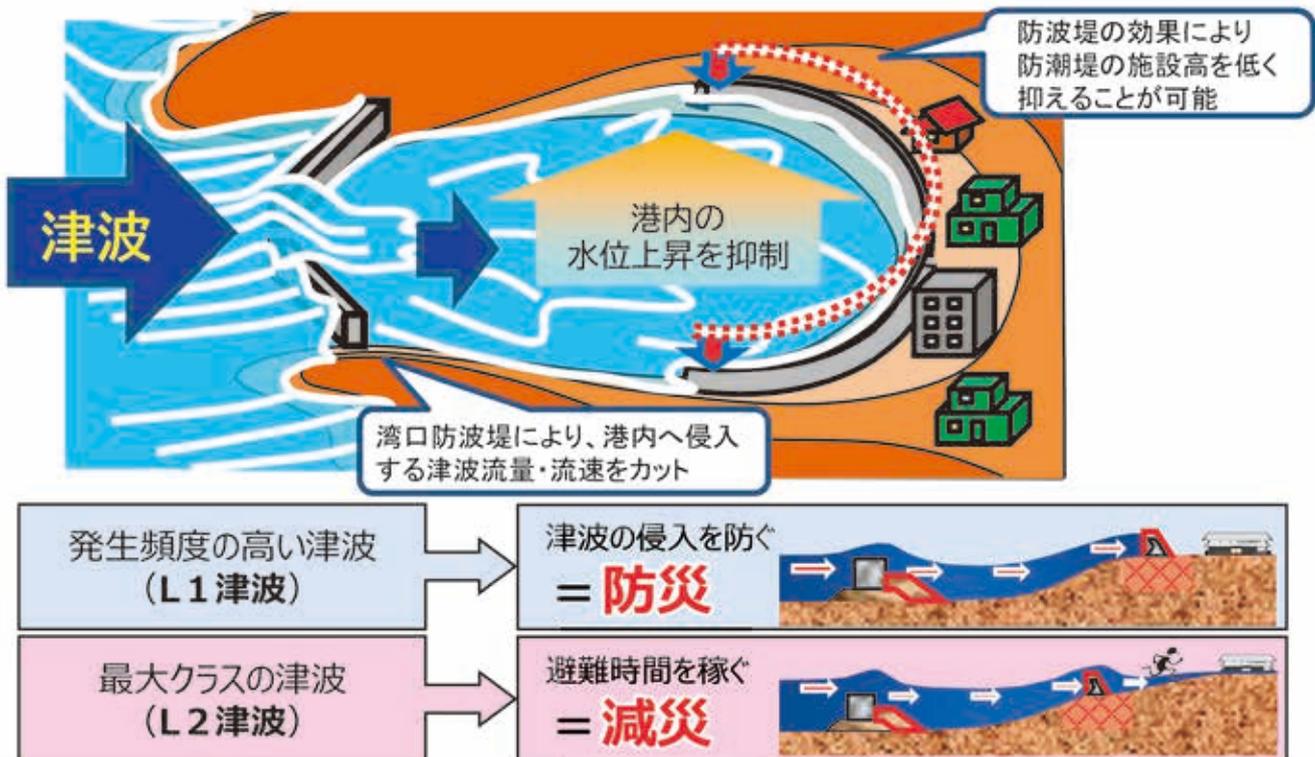


現在の写真 (2016年10月五台山より撮影)



## 防護目標

高知港海岸の海岸保全施設整備にあたっては、発生頻度の高い津波(L1津波)に対しては、津波防護ラインより陸側への津波の侵入を防ぐ“防災”、最大クラスの津波(L2津波)に対しては、浸水面積や浸水深の低減、津波到達時間を遅延させ避難時間を稼ぐ“減災”のための対策を図ります。



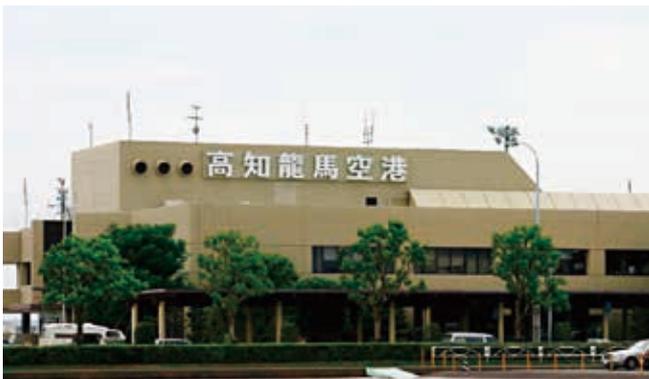
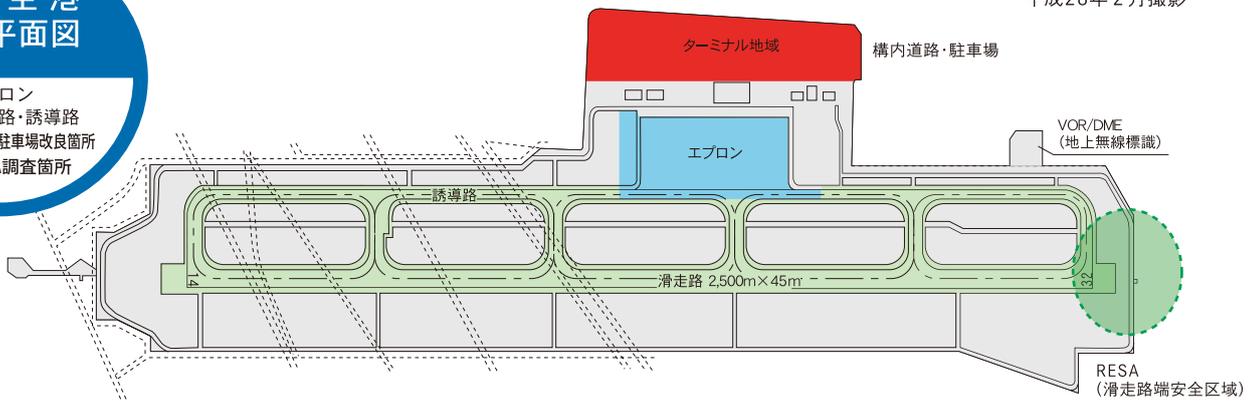
# 高知空港



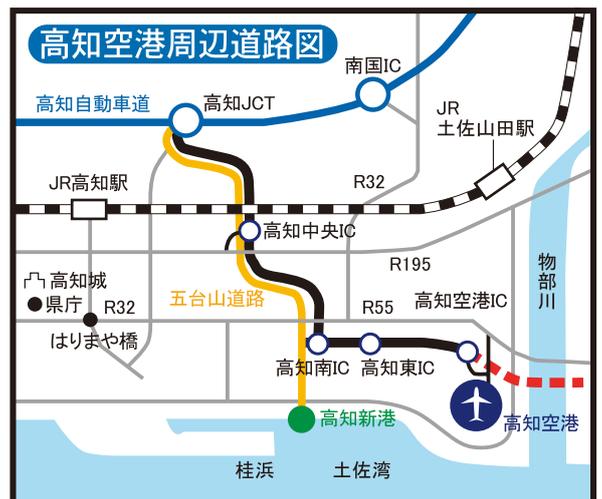
平成28年2月撮影

## 高知空港 全体平面図

- エプロン
- 滑走路・誘導路
- 道路・駐車場改良箇所
- RESA調査箇所



高知空港は、平成15年11月15日より、土佐を代表する偉人である坂本龍馬の名を冠した「高知龍馬空港」の愛称が付けられています。



令和4年2月時点

## 概要

## OUTLINE

高知空港は、高知市の東方約18km、物部川河口近くの南国市物部に位置し、高知県の穀倉地帯と呼ばれる香長平野の南端にあります。

昭和19年に設置されて以来、時代の経過とともに整備拡張されてきました。平成16年2月に2,500mの滑走路の供用が開始され、同年4月には本県初のジャンボジェット機就航となったアメリカ西海岸ツアーが行われ、その後もヨーロッパ、ハワイなど各方面へ向けた国際チャーター便が就航、高知から世界への窓口が大きく広がりました。

平成16年度より旅客ターミナルビルから駐車場にかけてのバリアフリー整備を進め、歩道ルーフ・横断歩道ルーフ・身障者用駐車場ルーフなどの整備を行い、空港利用者の利便性向上を図りました。

高知空港は、近い将来高い確率での発生が予測されている東南海・南海地震に対し、高知県の地域防災計画において重要拠点に位置づけられ、「緊急輸送拠点」としての役割が期待されています。

## 構内道路・駐車場の改良等

空港施設が確実に機能を発揮するよう、平成28年度から老朽化の目立つ構内道路・駐車場の舗装打ち替えを行いました。

また、平成25年に国際標準と合致するようRESA(滑走路端安全区域)に関する基準が改定されたことを受け、RESA拡張のための調査・設計を行っております。



歩道ルーフ



横断歩道ルーフ



身障者駐車場ルーフ



## 沿革

## History

昭和19年	旧海軍「日章第一海軍航空基地」として設置。(滑走路1,250m×60m)
昭和20年	終戦とともに連合軍に接收。
昭和27年	接收解除。
昭和29年	極東航空(株)により、高知～大阪準定期航路開設。
昭和33年	第2種空港の指定を受ける。
昭和36年	滑走路を1,500mに拡張。
昭和47年	「高知空港整備基本計画」を策定。(滑走路2,000m×45m)
昭和58年	滑走路2,000m供用開始、ジェット機就航。
平成6年	「高知空港整備基本計画」を策定。(滑走路2,500m×45m)
平成15年	高知龍馬空港として愛称化。
平成16年	滑走路2,500m供用開始、ジャンボジェット機就航。
平成26年	主要地下構造物の耐震工事に着手
平成28年	RESA拡張のための調査・設計に着手。
平成30年	県内初のLCC(格安航空会社)が就航。



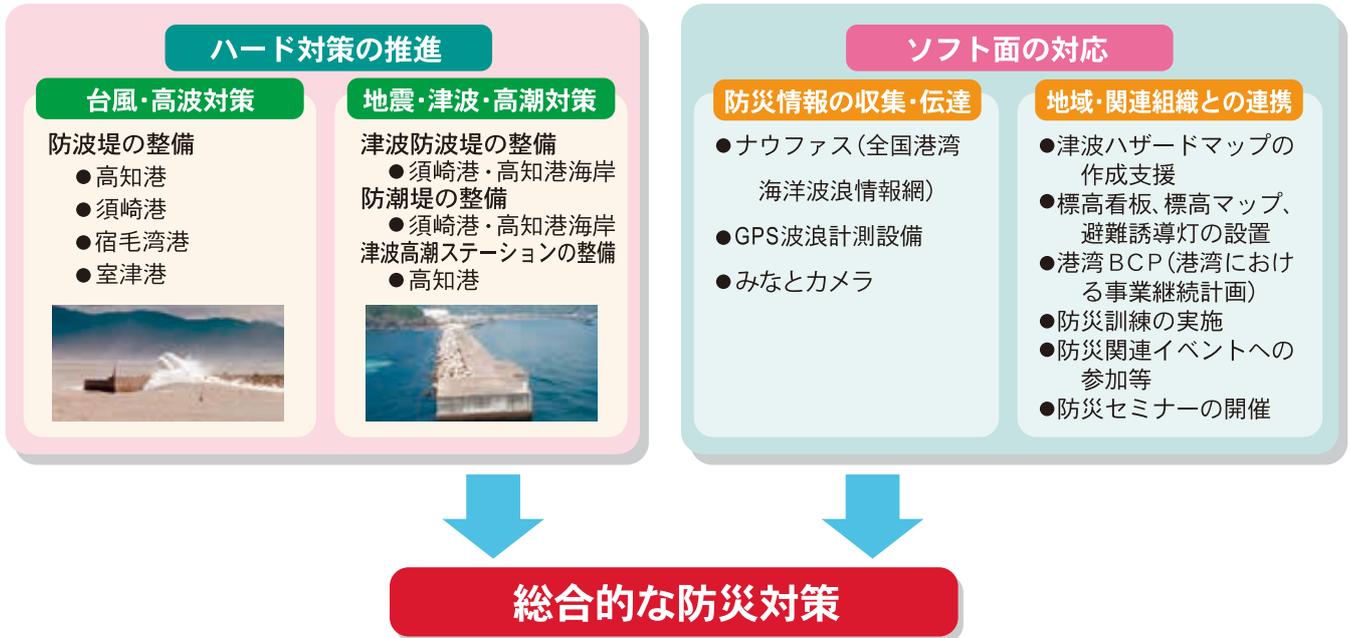
# 総合的な防災対策の推進

防災対策には、ハード対策とソフト対策があり、これらを連携させていくことが重要です。

ハード対策とは、防波堤等の構造物による被害の抑制など、防護水準の向上策を指します。

一方、ソフト対策とは、ハード対策だけでは防ぎきれない災害への対応であり、災害発生時の事前・事後を含めた情報提供、避難対策等、被害軽減のための仕組み作りを指します。

高知港湾・空港整備事務所は、災害による被害を最小限に止めるため、各地方公共団体とも連携し、重点的なハード対策を進めていくとともに、様々なソフト面での対応により地域防災をサポートしています。



## 防災情報の収集・伝達

### ■ナウファス(全国港湾海洋波浪情報網)

ナウファスとは、国土交通省港湾局や各地方整備局、国土技術政策総合研究所および港湾空港技術研究所などの相互協力のもとに構築・運営されている我が国沿岸の波浪情報ネットワークです。全国78観測地点(令和3年現在)で観測された波高や周期などのデータをインターネットでリアルタイムで見ることができます。

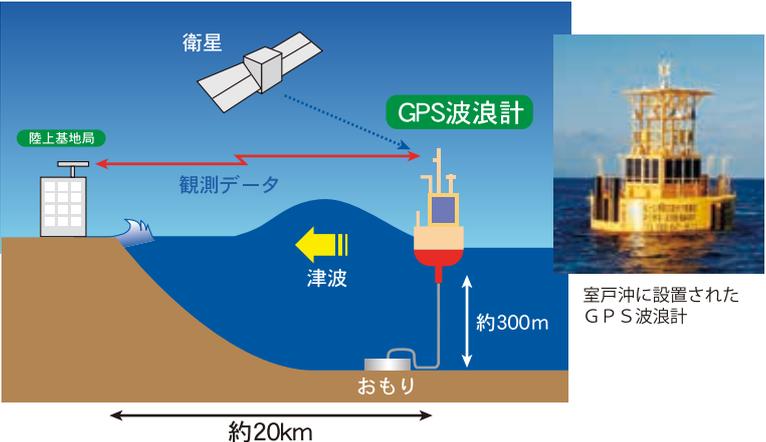
ナウファス波浪観測情報は、気象庁の波浪予測のほか、港湾事業等の沿岸域における開発・利用・防災に幅広く活用されています。



### ■GPS波浪計

GPS波浪計は、衛星を用いた測位システムであるGPS(全地球測位システム)を活用し、沖合に浮かべたブイの上下変動を計測することで、波浪等の海面変動を数cmの精度で観測するシステムです。このシステムは、港湾設備に必要な波浪情報を取得するために設置するものですが、地震発生時には津波による海面の上下動の観測も可能であることから、沿岸域での防災対策にも広く活用されることが期待できます。

当事務所ではGPS波浪計を平成19年11月に足摺岬沖約20km(水深約300m)の位置へ設置しており、平成26年11月に2基目となるGPS波浪計を室戸岬沖約19km(水深約290m)の位置へ設置しました。



## ■みなとカメラ

高知港、須崎港、宿毛湾港及び室津港に設置されているみなとカメラにより、港湾工事の施工状況把握や安全対策等、施工管理の強化が図られています。また、台風時の高波の状況や、地震発生時の津波状況等を画像でリアルタイムに把握することで、安全確保の迅速な対応も可能となりました。



みなとカメラによる画像



南防波堤先端



中工区ヤード

## 地域・関連組織との連携

### ■防災訓練の実施・防災関連イベントへの参加・防災セミナー等の開催

地域と共同で防災訓練を実施しています。また、地域で開催される様々な防災イベントへ、当事務所所有の「造波模型」を出展しています。さらに、一般の方々に防災の重要性を再認識していただくためのセミナー等を開催し、防災意識の高揚に努めています。

#### 「大規模津波防災総合訓練(2016年11月5日)」



▲開会式の様子



▲浚渫兼油回収船「海翔丸」



▲種崎防災夕涼み会



▲港湾施設被害調査訓練



▲訓練を視察する石井国土交通大臣



▲宿毛みなと祭り

#### 「世界津波の日 高校生サミット in 黒潮(2016年11月26日)」



▲知事挨拶

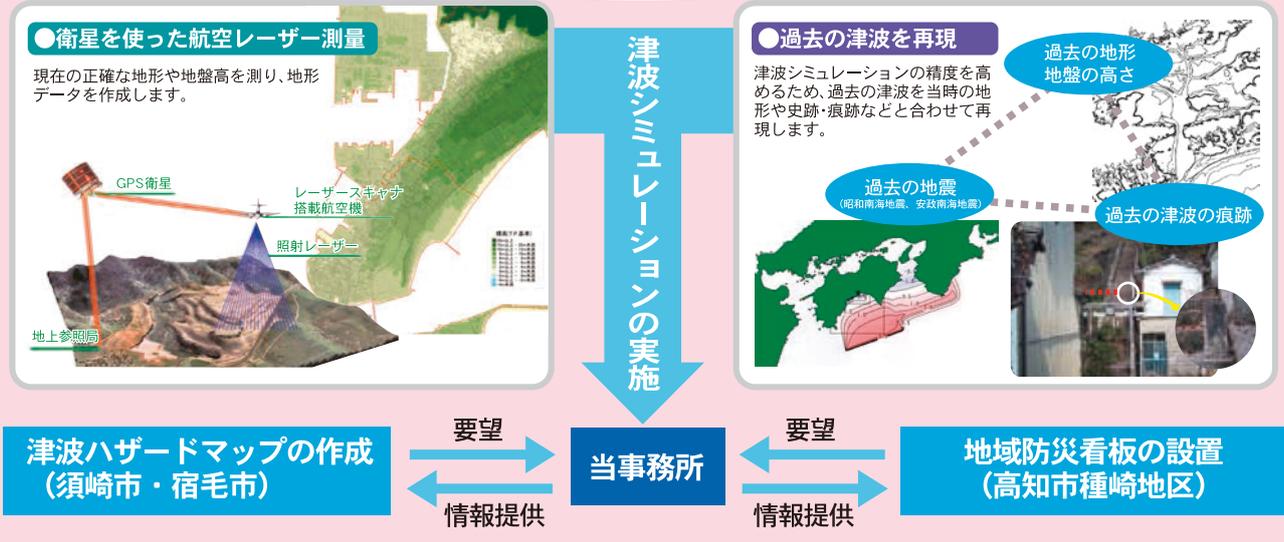


▲津波造波模型の見学



▲津波造波模型の体験

# 津波シミュレーション



## 津波ハザードマップの作成支援(須崎市)

「津波ハザードマップ」とは、津波災害に対する地域住民の方の避難や施設整備等の検討のために、浸水が予測される区域と浸水の程度を示した地図に、必要に応じて避難場所・避難経路などの防災情報を加えたものです。

津波ハザードマップによって、迅速な避難が可能となるだけでなく、防災意識の向上や防災教育などにも活用することができ、防災を意識したまちづくりを推進していくことにもつながります。



須崎市の津波ハザードマップには、表面に位置図や津波災害に関する学習報告、裏面には詳細な津波浸水情報などが掲載されています。

情報提供(津波シミュレーション結果)



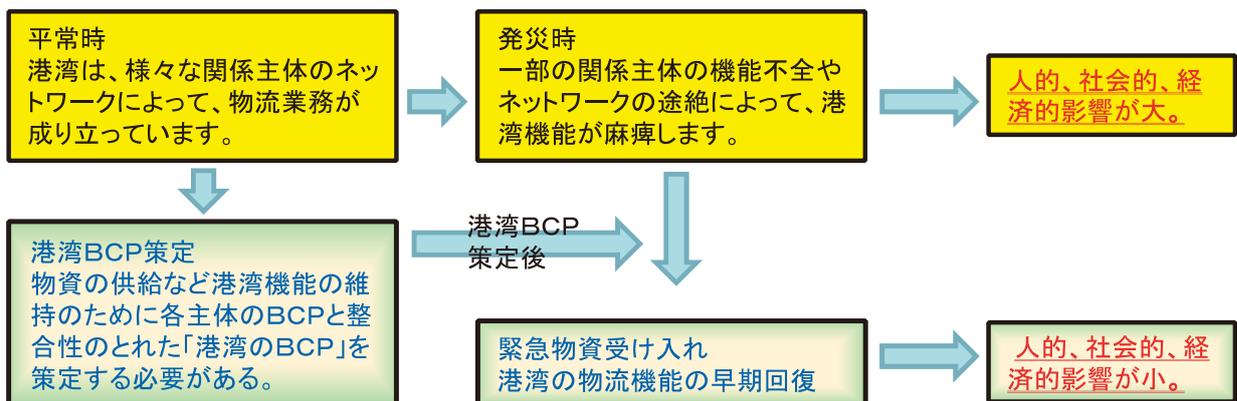
津波シミュレーション結果を活用した地域の取り組み(避難場所の設定等)



津波ハザードマップの完成

## 港湾BCP(港湾における事業継続計画)

- 災害発生時に港湾機能を維持するためには、港湾の運営管理に必要な関係各機関の連携が必要になります。
- それぞれの関係者が「災害時に自らがどう取り組むか」、「相互に連携してどう取り組むか」について、事前に関係者が協議し港湾BCPとしてまとめておきます。
- これにより港湾機能の損失低減や回復時間の短縮が図られ、地域経済へのダメージを少なくし今後の復興に役立てることが期待されます。



# 港湾における保安対策

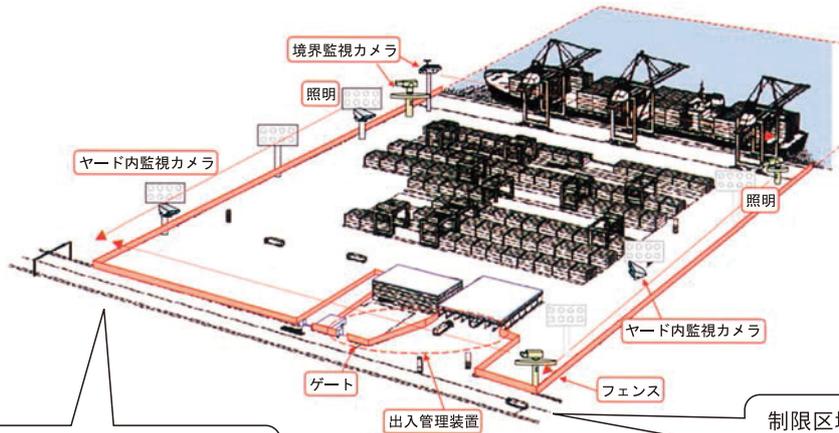
昨今の国際テロへの対策として、国際条約(海上人命安全条約:SOLAS条約)により、港や船の保安対策を強化することが義務付けられました。

高知港と須崎港の国際埠頭施設にはフェンス・照明等が設置されており、関係機関の連携による保安対策を実施しています。



▲高知港(三里地区)

## 港湾における保安対策(イメージ図)



海にも制限区域が設定されています。

必要最小限度の範囲においてフェンス等で区切られた制限区域が設けられ、カメラ等により監視しています。



制限区域内に入る場合は、本人確認、所属確認、目的確認の出入管理が行われます。貨物の搬出入にあたっては、貨物の点検が行われます。



当事務所では、港湾や海域の保安対策を総合的に推進するため港湾保安巡視、立入検査の実施、保安情報処理や総合訓練の指導などを行っています。

## 高知港・須崎港における保安対策 実施箇所



※詳細につきましては、国土交通省ホームページ ([https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan\\_fr7\\_000048.html](https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_fr7_000048.html)) をご覧ください。

# みなとオアシス



## ◆高知県内のみなとオアシス登録港(令和4年2月時点)

### みなとオアシス 奈半利

- 平成16年8月登録
- 設置者:奈半利町
- 運営者:みなと未来会議

#### 「みなとオアシス」で奈半利町を発信

奈半利港は、古くは紀貫之の「土佐日記」に"なはのとまり"と記されるなど非常に歴史があり、当時は土佐と都を結ぶ海路の要所として栄え、現在は防災の拠点としても重要な役割を担っています。また、平成14年には土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が開通し、その起点・終点となる奈半利駅が地域のランドマークとなっています。

「みなとオアシス奈半利」は平成16年に四国で初めてのみなとオアシス登録港となり、奈半利港・奈半利駅を中心として、ふるさと海岸沖で発見されたサンゴなど周辺の豊富な観光資源を活用した取り組みを進めてきました。今後もさらなる地域活性化を目指し、多数の住民グループの連携のもと、様々な活動を行っていく予定です。



奈半利港



ちびっこトライアスロン



お問い合わせ

「みなとオアシス奈半利」  
奈半利町役場 地域振興課  
TEL 0887-38-8182

### みなとオアシス 手結

- 平成18年10月登録
- 設置者:香南市
- 運営者:(株)ヤ・シイ

#### まちづくりの気運を「みなとオアシス」で盛り上げる

手結港は高知市の東方約23km、香南市夜須町の手結岬西北に隣接し、県立自然公園の中に位置しています。江戸時代に野中兼山の指導によって建設されたもので、わが国最初の本格的な掘込み港と言われており、歴史的・技術的・文化的価値の高い港です。

平成14年、手結港の西隣に「道の駅やす」や海水浴場などを複合した県立海岸緑地公園「ヤ・シイパーク」がオープンし、周辺地域の観光拠点が生じたこともあり、住民のまちづくりへの参加意識が深まってきました。この気運を「みなとオアシス」制度と結びつけ、手結港を地域活性化の場として活かそうと取り組んでいます。



手結港



ヤ・シイの秋祭り



お問い合わせ

「みなとオアシス手結」  
香南市役所 商工観光課  
TEL 0887-50-3013

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを推進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するものです。

みなとオアシス制度は、平成15年に中国及び四国地方整備局で創設され、その後、平成21年までに全ての地方整備局等にて制度の創設がなされました。その後、平成29年2月に、全国統一的な制度となりました。

航空写真提供：高知県

## みなとオアシス あしずり

■平成18年12月登録 ■設置者：土佐清水市  
■運営者：あしずり港みなとオアシス協議会

### 「みなとオアシス」であしずり港を活用し地域の活性化を！

あしずり港は高知市から西へ約 150km の土佐清水市にあり、足摺岬や竜串海中公園などの観光スポットの中間に位置することから、平成 18 年度にはジョン万資料館が海の駅に移転するなど、観光の拠点としても重要な役割果たしています。

近年は大型客船の誘致や「ジョン万海の元氣祭り」などのイベントの開催を通じて地域の活性化を図っており、「みなとオアシス」制度を活用し、あしずり港及び周辺施設を一体的な公園と位置づけることで、誰もが気軽に利用できる憩いの場となっています。



あしずり港



ジョン万海の元氣祭り



お問い合わせ

「みなとオアシスあしずり」  
土佐清水市役所 企画財政課  
TEL 0880-82-1217

## みなとオアシス 宿毛

■平成19年3月登録 ■設置者：宿毛市  
■運営者：みなとオアシス宿毛実行委員会

### 宿毛で「見て・食べて・買って・憩う」

宿毛湾港は豊後水道に面し、温暖な気候と豊かな自然に囲まれているとともに、四国西南地域の振興を誘導する港として工業流通団地が造成され、大型岸壁等の港湾整備が進められています。

みなとオアシス宿毛は、沖の島市営定期船ターミナルなどの港湾施設が集中する片島地区や、すくも 84 マリンターミナルのある池島地区を拠点としています。産業及び観光の中心となっているこれらの地区を中心として、地域の様々な天然資源や既存の施設などを有効活用し、「見る・食べる・買う・憩う」場所として各種イベントの開催や地域情報の発信などを行い、賑わいのあるまちづくりに取り組んでいます。



宿毛湾港



宿毛みなと祭り



お問い合わせ

「みなとオアシス 宿毛」  
宿毛市役所 企画課  
TEL 0880-63-1118

# みなとオアシス 久礼

- 平成29年4月登録
- 設置者：中土佐町
- 運営者：株式会社SEAプロジェクト

## 「みなとオアシス」で新しい港活用の取り組み始動

久礼港は、「土佐の一本釣りの町」として知られる中土佐町にあります。

久礼港および周辺施設を一体的な交流拠点エリアとする「みなとオアシス久礼」は、高速道路と海路のサービスエリア的な役割と町の玄関口としての機能をはたし、港を核とした新たな賑わい空間の創出と地域の産業振興を図っています。

エリア内では高知を代表する食のイベントである「かつお祭り」が毎年開催され、県内外から多くの来場者が訪れており、他にも「ふるさと海岸」を活用したトライアスロンを開催するなど、みなとの魅力を発信し他地域からの交流人口の拡大につなげることで地域全体の活性化を図っています。



久礼港



かつお祭り



お問い合わせ

「みなとオアシス久礼」  
中土佐町役場 まちづくり課  
TEL 0889-52-2365

## 四国のみなとオアシス登録状況



(令和4年2月現在)  
みなとオアシス  
因島・上島



本登録 14港	
小松島みなとオアシス	H16. 8.25
みなとオアシスうたづワミホテル	H18. 6.29
みなとオアシス大板城残石記念公園	H17. 8.29
みなとオアシスうわじま きさいや広場	H21. 3.12
みなとオアシス八幡浜みなと	H17. 8.29
みなとオアシス伯方	H16. 8.25
みなとオアシス百毛	H19. 3.17
みなとオアシスあしすり	H18.12.25
みなとオアシス奈半判	H18. 8. 9
みなとオアシス手結	H18.10.26
みなとオアシス久礼	H29. 4.21
みなとオアシスマリンパーク新居浜	H30. 7. 1
みなとオアシス佐田岬はなはな	R2. 5.30
みなとオアシス因島・上島	R2. 9.26

## 「海とみなとの相談窓口」について

海やみなとに関する地域からの様々な相談に応じ、地域に密着した港湾行政を展開していくため、「海とみなとの相談窓口」を設置しています。

### ■相談内容等

「海とみなとの相談窓口」は海とみなとに関する総合的な相談窓口として、以下のような相談に応じます。

- 海やみなとの利用に関する相談
- 「総合的な学習の時間」に関する相談
- 海での自然体験・環境学習に関する相談
- 海やみなとの観光・歴史に関する相談
- みなとまちの活性化やウォーターフロントに関する相談
- 海やみなとの自然再生や緑地の維持管理・景観に関する相談
- みなとの構想や計画に関する相談
- 海洋土木技術に関する相談
- その他海とみなとに関する相談 等

全国共通フリーダイヤル

0120-497-370

(おおいに 良くなれ みなと)



## みなとや工事現場の「見学会」について(高知港・須崎港・宿毛湾港・室津港)

「みなと見学会」や「工事現場見学会」、当事務所が実施している事業や防災に関する「出前講座」を開催しています。学校の総合学習などとしてご活用下さい。ご希望の場合は、お早めにご相談下さい。

なお、毎年「海の月間(7月)」にあわせ、ホームページ等で参加者を募り、クルーズ体験イベント「みなとウォッチング」を高知港・須崎港にて実施しています。

### ■相談先

高知港湾・空港整備事務所 (企画調整課)

〒781-0113

高知市種崎874番地

[TEL] 088-847-3512 [FAX] 088-837-6644

[E-mail] pa.skr-kckc-i88s3@mlit.go.jp

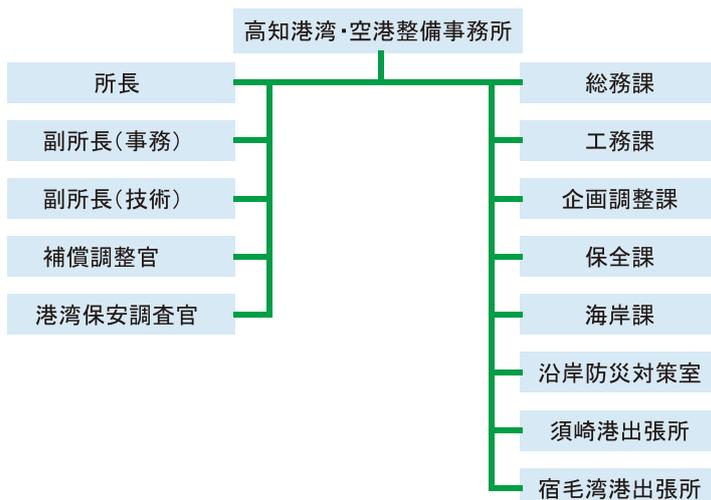
- 郵便、電話、FAX、電子メールなどにてお申し込み下さい。
- 留意事項：参加者数は10~40名程度でお願いします。  
申し込みは見学希望日の1ヶ月以上前をお願いします。  
原則、小学校高学年以上を対象にしています。  
見学会については土、日、祝祭日を除いて実施いたします。



港湾業務艇「とさかぜ」

- 総トン数 27ト
- 全長 18.00m
- 幅 4.44m
- 吃水 0.78m
- 速力 26.47ノット
- 旅客定員(船員含む)  
航行時間1.5時間未満…24人  
航行時間1.5時間以上24時間未満…20人

## 高知港湾・空港整備事務所 組織図







# 高知港湾・空港整備事務所

〒781-0113 高知県高知市種崎874番地  
 TEL(088)847-3511(代) FAX(088)837-3001  
 ホームページアドレス  
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/kouchi>



■はりまや橋から種崎線バス種崎浜通バス停下車徒歩3分

## 須崎港出張所

〒785-0054  
 須崎市多ノ郷字船着乙734  
 TEL(0889)42-8350  
 FAX(0889)43-0216



## 宿毛湾港出張所

〒788-0013  
 宿毛市片島10番60-6号  
 宿毛運輸総合庁舎3F  
 TEL(0880)62-1650  
 FAX(0880)62-1651



## 室津港出張所

〒781-7103  
 室戸市浮津62  
 室戸ビル機械棟2F  
 ※現在職員は在庁しておりません。御用の方は、  
 高知港湾・空港整備事務所までお願いします。

